

高繩会が近づいてきた。今年は桜の開花が早く、気温も三月後半急激に上がったので、確実に葉桜だろうし、悪いことに雨にもなりそうな予報だ。

古い記録を引き出してみると、雨や台風もどき、葉桜などが割合多く、満開の桜を愛でての開催は少ない。

昨年、会長だった早坂暁先生が亡くなられた。先生のファンなので毎年お話を聞きたくて参加し、先生の言葉を記録していた。亡くなられたのはとても残念だし懐かしくも思い、読み返してみたのだった。忘れていた事や、年代がごちゃ混ぜに記憶していた事も分かった。

記録として残っているのは、一番古いのが二〇〇二年だった。場所は上野の老舗料亭、韻松亭だ。私は一九九七年に初参加して、五年ぶりの二度目の参加だった。

渡辺喜十郎先生が三月に百歳になられ、お祝いの記念樹を贈ることがここで決まった。記念樹は難波の鎌大師境内で成長し、現在も美しい桜を咲かせてくれているようだ。

この時、市長、観光協会の人と共に、実家の隣の息子で、森水産の社長になっている敬一氏が見えていて驚いた。市長は、昨年の会で参加者に食べたいものの要望を聞いたら、ベスト三が、イカナゴ、鹿島まんじゅう、すまきだったので持ってきました。と述べ、イカナゴは森水産社長自らが、持参してくれたのだった。

この時会長だった、大石慎三郎氏は風邪のため欠席だった。早坂氏も出席していなかった。

二〇〇三年は大風雨の中を出席し、前年は葉桜になっていたと書いている。早坂氏は出席でなかったのだろう、文面がない。近所の幼友達と四十年ぶりの再会を喜んで子ども時代の思い出を書いているが、その彼とはその後連絡が付かなくなり、会えていないのが淋しい。

「毎年参加してくださいださる市長さんや、市の有志の方が懐かしい郷土の味を持参して、はるばる出席してくれるのがうれしい。捕りたてのいかなごを釜揚げにして麦味噌で作った酢味噌と共に届けられたのに感動し、舌鼓を打った」
と書かれている。この年にも森水産さんは、いかなご釜揚げをご提供してくださっていたのだ。

二〇〇四年は、韻松亭で開催するのが最後の年だった。また北条市は松山市との合併が決まり、北条市として開催するのも最後と言うことで、市長、市会議員、観光協会、森水産さんなど郷里から五名の方が参加してくれていた。

早坂氏のお話は、先日スタッフ達を鹿島に連れて行って、鯛飯とニシを食べさせたから、目をまん丸にして驚き、「こんなに美味しい物を何時も食べているんですか」と言うから「こんなの普通だよ」と言ったんだ。故郷を褒められると、まるで自分のことを褒められたように、誇らしくてうれしい。と言ったような